

防災戦略の意思決定プロセスに資する総合的な
自然災害安全性指標（GNS）実現に関する研究委員会（成果普及）
令和6年度第1回委員会 議事次第

場 所 : 地盤工学会館/ZOOM

日 時 : 2024年6月13日（木） 14:00～17:00

出席予定者：伊藤和也，菊本統，小山倫史，平岡伸隆，安藤伸，小野田敏，大村さつき，飯田進史，石井美帆，湧川勝己，安國恭平

WEB参加者：

不 明：永松伸吾，日下部治，稲垣秀輝，酒井直樹

欠席予定者：今井龍一，大里重人，向井友亮，梶谷惣和

1 審議事項

1) 開催の挨拶・委員員名簿 (資料 R6-10-02)

2) 令和5年度第2回委員会議事メモ（案） (資料 R6-10-03)

3) WG活動について (資料 R6-10-04)

WG1：GNSの高度化WG（次期GNS，項目1～3に該当）→全体WG

WG2：災害規模に応じた地域防災計画等の策定WG（行政向け，項目2～3に該当）

WG3：企業ニーズを含めたリスク指標検討WG（企業向け，項目4に該当）

WG4：地盤リスクに関する判例WG（項目5に該当）

WG5：現GNSの更新・公開，現GNSの利用方法WG（出典，根拠）

1. 自然災害に対するリスク指標GNSの更新・公開に関する検討

①全国統一市町村版GNSの作成について

→ 安國委員が取りまとめ

②GNSの可視化（平岡幹事，飯田委員）

③市町村版GNSデータの利用・公開について

関東支部のページ（暫定版）

https://jibankantou.jp/group/gns2_2023.html

リンク先（平岡さん制作，パソコンサーバー提供）

<https://gns-risk.com/app4/>

④GNS算出のスク립ト化

- ・ 関東支部の委員会ページの作成について
 1. GNS ってなに？（ねらい・思想）
 2. GNS はこうやってできています（算定手順）
 3. GNS で使っているデータ（出典，時点）
データはある。未反映
 4. 利活用例（ユースケースの仮説）
未完成
 5. よくある質問
 6. 免責事項

データ・使用許諾リスト

- ・ 防災科研のデータプラットフォーム
 - 「地域防災 WEB」 <https://chiiki-bosai.jp/> と GNS の連携について
伊藤の不手際により防災科研担当者との打ち合わせが未実施
- ・ G 空間情報データベース
 2. 防災減災に対する公共投資の妥当性・進捗の把握手法
 3. 「居住地域の再考」の包括的な根拠となりうる指標
 4. 企業の BCP・BCM に寄与できる新たな指標の開発
 5. 地盤リスクに関する判例分析
 6. GNS を利用した講習会等の普及活動の実施
 - ①青本（地盤調査法）の執筆依頼（主査：稲垣顧問，執筆担当：伊藤）
 - 2.8 ハザードとリスク評価
 - ②地盤工学会災害調査論文集「関東地震 100 年地盤災害を振り返る」
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jgsdr/-char/ja>
 - ③土木学会安全問題討論会 デザイン部門（2023 年度新設）
自然災害安全性指標 GNS2022 の可視化～ホームページの作成～
 - ④土砂災害予測に関する研究集会（防災科研）
大正関東大震災による土砂災害を振り返る―震災 100 周年を迎えて―
 - ②の中から土砂災害を抽出
 - ⑤技術士会応用理学部会講演会（伊藤）
「自然災害安全性指標 GNS」
- ①「マイホーム Walker」（家を買うよきに読む本）7月号に「自然災害に強い街ランキング」掲載予定で GNS データを使用したい
提供済み
- ②所沢市広報誌において、防災の特集を行う。その際に、過去 SUUMO 様などで記事にされた

自然災害に対するリスク指標（GNS）において、所沢市が災害に強い街ランキング1位だったことをコラムのような形で掲載したい

連絡調整をしていたが、音沙汰が無くなった。

4) その他・連絡事項 (資料 R6-10-05)

・学会での発表について

土木学会論文集（安全問題）への投稿（市町村版 GNS） 投稿済み（査読中）

自然災害科学への投稿（死傷者数推定） 未

5) 話題提供

応用地質 安藤委員

能登半島地震の調査

6) 次回（第 回委員会）の予定（日時と話題提供者）

第11回委員会：2024年 月 日 : ~ : ZOOM/対面

話題提供者：

2 配布資料

06-10-01. 議事次第

06-10-02. 名簿案

06-10-03. 令和5年度第2回委員会議事メモ（案）

06-10-04. 委員会進捗関係資料

06-10-05. 話題提供資料

以上